

令和7年度第2回小田原市生活交通ネットワーク協議会 次第

日時：令和7年(2025年)10月31日(金)

午前10時から

場所：生涯学習センターけやき3階 視聴覚室

1 協議事項

- (1) 生活交通改善事業計画（バリアフリー化設備等整備事業）について【資料1】
- (2) 待合環境の改善に向けた取組（バスまちばの設置）について【資料2】

2 報告事項

- (1) 地域内フィーダー系統確保維持補助金（令和7年度事業分）について【資料3】
- (2) おだタク・おだチケ実証事業（第5弾）の実施について【資料4】
- (3) 移動支援の検討状況について（更新）【資料5】
- (4) バス de おでかけプロジェクトの実施について【資料6】

3 その他

- (1) 小田原市総合計画・行政案における交通施策について
- (2) 県バス協会主催 バス乗務員会社説明会の開催について

卓上配付資料

- ・出席者名簿
- ・座席表
- ・【資料1】生活交通改善事業計画（バリアフリー化設備等整備事業）（案）
- ・【資料2】待合環境の改善（バスまちば）についてほか
- ・【資料3】地域内フィーダー系統補助（令和7年度事業分）の事務スケジュール
- ・【資料4】おだタク・おだチケ実証事業（第5弾）の実施について
- ・【資料5】移動支援の検討状況について
- ・【資料6】バス de おでかけプロジェクト チラシほか
- ・【別紙】第7次小田原市総合計画 第1期実行計画における地域公共交通に係る事項について
- ・小田原市地域公共交通計画

令和7年度 第2回 小田原市生活交通ネットワーク協議会 出席者名簿

区 分		会 員		出 欠	備 考
		職 名	氏 名		
バス事業者	箱根登山バス株式会社	運輸部付課長	松本 峰雄	出 席	
	伊豆箱根バス株式会社	小田原営業所長	渡邊 淳也	出 席	
	富士急モビリティ株式会社	業務部 部長	畑野 政信	出 席	
	神奈川中央交通株式会社	運輸計画部 課長	橋山 英人	出 席	
タクシー事業者	神奈川県タクシー協会 小田原支部	監事	曾我 良成	出 席	
運転者が組織する団体	神奈川県交通運輸産業 労働組合協議会	幹事	橘川 直広	出 席	
利用者・ 市民代表等	小田原市自治会総連合	前羽地区自治会連合会長	北村 千波	出 席	
	小田原市自治会総連合	下中地区自治会連合会長	峯尾 興	欠 席	
	小田原箱根商工会議所	経営支援二課 課長	小林 大悟	出 席	監 事
学識経験者	福島大学	教授	吉田 樹	出 席	会 長
交通管理者	神奈川県小田原警察署	交通第一課長	山本 真之	欠 席	
道路管理者	国土交通省関東地方整備局 横浜国道事務所	交通対策課長	嶋原 謙二	欠 席	
	神奈川県県西土木事務所 小田原土木センター	工務担当部長	吉岡 敦	欠 席	
	小田原市	建設部長	飯塚 敬司	出 席	
交通政策所管	国土交通省関東運輸局 神奈川運輸支局	首席運輸企画専門官	加納 光博	出 席	
	神奈川県	県土整備局都市部 交通政策課 副課長	廣野 修一	出 席	監 事
	小田原市	都市部長	佐藤 正和	出 席	副会長

区 分		職 名	氏 名	備 考
事務局	小田原市都市部	副部長(地域交通課長事務取扱)	金子 明弘	事務局長
		地域交通課副課長	倉本 敦行	
		地域交通課主査	泉 遼佑	
		地域交通課主査	曾我 政王	
		地域交通課主任	土谷 海斗	
		地域交通課主事	米山 功一	
		地域交通課主事	葛西 隼太郎	

※地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づく法定協議会

※任期：2年（令和7年(2025年)4月1日～令和9年(2027年)3月31日）

令和7年度第2回 小田原市生活交通ネットワーク協議会 座席表

		吉田会長 (学識経験者)		佐藤副会長 (小田原市都市部)	
傍聴席	松本会員 (箱根登山バス)			廣野会員 (神奈川県交通政策課)	
	渡邊会員 (伊豆箱根バス)			加納会員 (神奈川運輸支局)	
	畑野会員 (富士急モビリティ)				
	随行員 (富士急モビリティ)			飯塚会員 (小田原市建設部)	
	橋山会員 (神奈川中央交通)			小林会員 (小田原箱根商工会議所)	
傍聴席	曾我会員 (神奈川県タクシー協会 小田原支部)			北村会員 (小田原市自治会総連合)	
	橘川会員 (神奈川県交通運輸産業 労働組合協議会)				
		小田原市(事務局)			
		小田原市(事務局)			

生活交通改善事業計画（バリアフリー化設備等整備事業）（案）

令和 7 年 10 月 日

（名称）小田原市生活交通ネットワーク協議会

（代表者名）会長 吉田 樹

1. 生活交通改善事業計画の名称

令和 7 年度ノンステップバス導入事業計画

2. バリアフリー化設備等整備事業の目的・必要性

令和 7（2025）年 1 月 1 日現在、小田原市は高齢化率 30.8%の超高齢社会であり、今後
も高齢化の更なる進展が見込まれる中、路線バスは高齢者の生活を支える重要な移動手段と
なっている。また、市では性別や年齢、障害の有無などにかかわらず、すべての人が互いの
人権や個性を尊重し支え合う共生社会の実現を目指しており、誰もが安心して利用しやすい
交通環境の整備を推進することで、社会参加の機会の確保・創出を図っている。

3. バリアフリー化設備等整備事業の定量的な目標及び効果

（1）事業の目標

国の「移動等円滑化の促進に関する基本方針」に基づき、令和 6 年 3 月策定の小田原市地
域公共交通計画では、計画最終年度（令和 15（2033）年度）までに、市内を運行するバス
事業者におけるノンステップバスの導入率を 80.0%とすることを目標にしている。

（2）事業の効果

ノンステップバスの導入による利便性の向上により、通院や買い物等の外出時の移動の
負担が軽減され、移動の円滑化が図られる。また、これまで自家用車による送迎等を要した
移動がバス利用に移行することで、バス利用者の増加や環境負荷の軽減等に寄与する。

4. バリアフリー化設備等整備事業の内容と当該事業を実施する事業者

（1）事業の内容：実施事業者（補助対象事業者）

（内容）

ノンステップバスの導入 大型（9 m以上）3 台：伊豆箱根バス株式会社

（実施事業者（補助対象事業者）の身体・知的・精神の 3 区分における運賃割引率について）

身体：普通旅客運賃 5 割、定期旅客運賃 3 割

知的：普通旅客運賃 5 割、定期旅客運賃 3 割

精神：普通旅客運賃 5 割、定期旅客運賃 3 割

(2) 関連事項（以下、〈 〉内の事業に該当する場合に記載）
〈バス車両の導入に係る事業〉 小田原市内を運行するバス事業者におけるノンステップバスの導入台数※ ノンステップバス : 178 台 乗合バス車両の総台数 : 326 台 ※令和 7 年 3 月末現在、小田原市地域公共交通計画の評価等結果（令和 6 年度）より

5. バリアフリー化設備等整備事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額					
令和 7 年度（当該年度）					
事業の名称	総事業費 割合	国費 割合	都道府県負担 割合	市区町村負担 割合	事業者負担 割合
ノンステップ バスの導入	70,260 千円	4,200 千円	0 千円	0 千円	66,060 千円
	100%	5.9%	0%	0%	94.1%
※総事業費については見込み額を記載					

6. 計画期間	
以下項目別に概ねの着手・実施期間を矢印（←→）、または横棒線（——）で記載 ●で事業着手日、事業完了日を記載	
事業の名称	令和 7 年度
	4 月 9 月 12 月 3 月
ノンステップバス の導入	交付決定後着手 (3 台購入) ●—————● 2 月 28 日完了

7. 協議会の開催状況と主な議論
令和 7 年 10 月 31 日 令和 7 年度第 2 回小田原市生活交通ネットワーク協議会にて本計画 について協議

8. 利用者等の意見の反映
小田原市生活交通ネットワーク協議会には、市民・利用者等の代表が委員として参画しており、当該委員へ照会し、意見等があれば反映させている。

9. 協議会メンバーの構成員	
関係都道府県	神奈川県県土整備局都市部交通政策課

関係市区町村	小田原市都市部地域交通課
交通事業者・ 交通施設管理者等	箱根登山バス株式会社、伊豆箱根バス株式会社、富士急モビリティ株式会社、神奈川中央交通株式会社、神奈川県タクシー協会小田原支部、神奈川県交通運輸産業労働組合協議会、小田原警察署、関東地方整備局横浜国道事務所、神奈川県県西土木事務所小田原土木センター、小田原市建設部
地方運輸局	関東運輸局神奈川運輸支局
その他協議会が必要と認める者	福島大学教授、小田原市自治会総連合、小田原箱根商工会議所

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 神奈川県小田原市荻窪 300 番地

(所 属) 小田原市都市部地域交通課

(氏 名) 曾我

(電 話) 0 4 6 5 (3 3) 1 2 6 7

(e-mail) ma-koutsu@city.odawara.kanagawa.jp

待合環境の改善（バスまちば）について

1 経緯・目的

小田原市地域公共交通計画では、待合環境の改善（施策 No. 17）において、路線バスの待合環境の改善に取り組むこととしている。

そのような中、岐阜市から公共交通利用環境の向上を目的として、バス停付近の商業施設をバスの待合スペースとして活用する「バスまちば」の認知度向上に向けた横展開に関する協力依頼があった。

これらのことから、本市においても、バスの待合環境の改善に向け、「バスまちば」の設置を進めていく。

2 バスまちばの整備

協力が得られるバス停付近の商業施設の敷地内を「バスまちば」として活用するとともに、次の設備の設置等を行う（設置内容は、商業施設、バス事業者と協議して決定）。

項目	内容	設置イメージ
のぼり旗・シール	バス待合スペースがあることを周知するとともに、バスまちばのPRを行う。	
公共交通情報 BOX	バスマップや最寄バス停の時刻表を配架。 バスロケーションシステムのQRコードを設置し、バスの近接情報を確認できるようにする。	
駐輪スペース	バス利用者の自転車スペースを確保	

< 役割分担 >

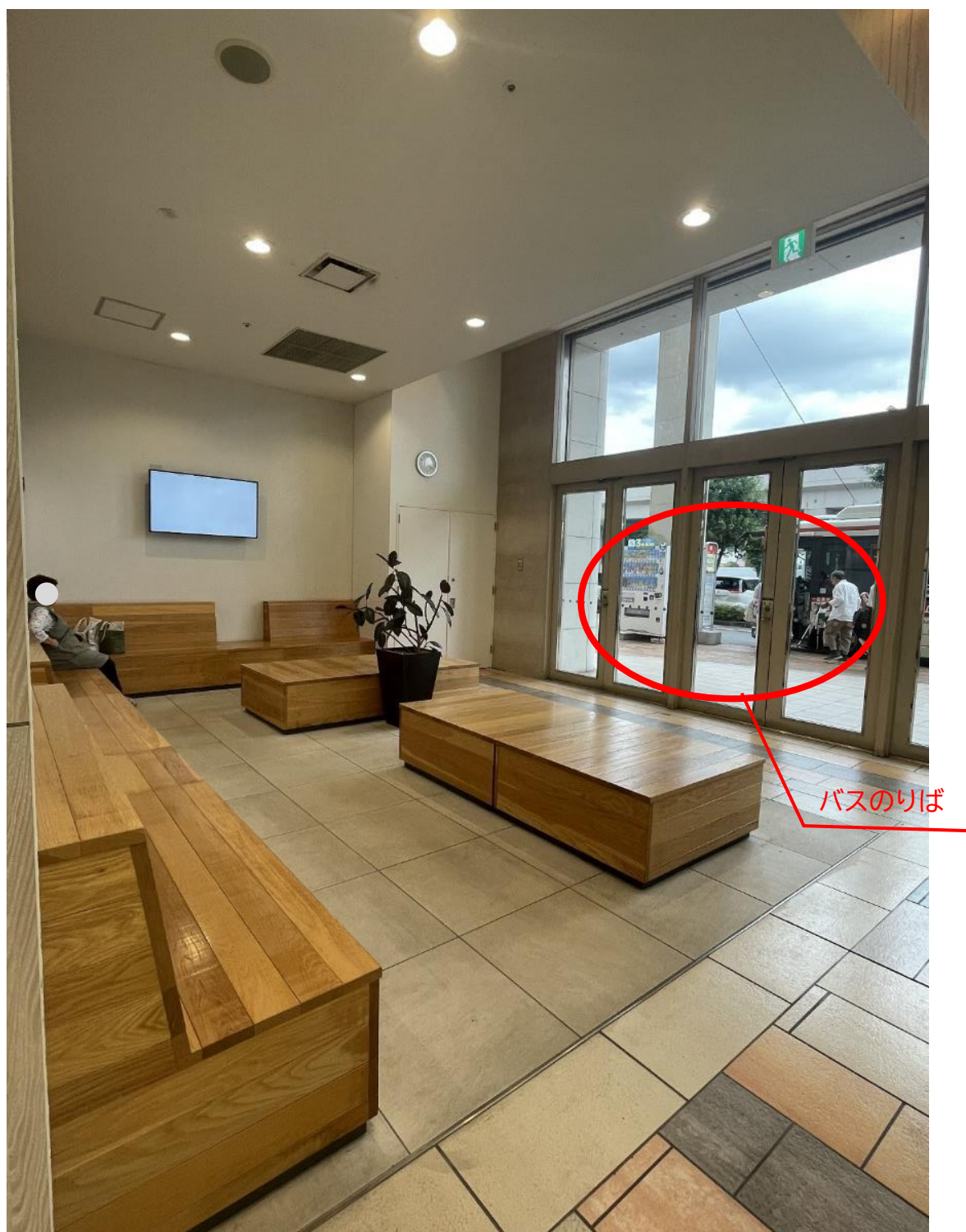
団体	役割
商業施設	店内スペース等の提供
バス事業者	維持管理（時刻表の更新等）
小田原市生活交通ネットワーク協議会	設備の設置
小田原市	周知・維持管理

3 今後の予定

まずは、ダイナシティの既存の休憩スペースを「バスまちば」として活用する。

なお、市がクーリングシェルターとして指定した施設から順次協力依頼していくことを想定している。

<ダイナシティバスまちば検討箇所>



バスまちば[®]

バスが来るまで
ちょっと休憩しよう♪



モニターでバスの運行情報が確認できます

バスを待つ時間を ちょっと楽しく

“バスまちば”は、バス停のすぐ近くにあるお店で
買い物や休憩をしながらバスを待つことができる
とっても快適で便利な待合所。

雨や風が強い日、暑い夏や寒い冬でも、
バスを待つのがちょっと楽しくなります。



【お問い合わせ先】 岐阜市都市建設部交通政策課
TEL 058-214-2028



対象店舗など
詳しくはこちら

バス停近くの店舗を活用した“バスまちば”で 快適にバスをお待ちいただけます



店内で休憩したり、買い物をしたりして、
快適にバスをお待ちいただけます。

この店舗では軒下ベンチを
ご利用いただけます



十六銀行忠節支店

セブン-イレブン岐阜琴塚3丁目店



店内設置のモニターで、
バスの運行情報を
ご確認ください。

バス停に向かうタイミングを
お知らせしてくれるから
安心してバスを待てます



バスの到着に合わせて
バス停に向かえばOK♪



バスまちば®は、 市内18店舗に拡大中！

セブン-イレブン (5店舗)

- 岐阜福光南町店 (長良平和通り)
- 岐阜早田大通1丁目店 (忠節)
- 岐阜北一色店 (東興町)
- 岐阜琴塚3丁目店 (琴塚3丁目)
- ★岐阜加納城南通3丁目店 (奥平町/南陽町・加納高校前)

ローソン (5店舗)

- 長良高見町店 (長良高見)
- 岐阜大福町店 (則武新屋敷)
- 岐阜城東通店 (気象台前)
- 岐阜宇佐東町店 (宇佐)
- 岐阜六条大溝店 (六条大溝町)

ファミリーマート (3店舗)

- 早田栄町店 (岐阜赤十字病院前)
- 岐阜大福町店 (大福町5丁目)
- ★岐阜茜部中島店 (茜部中島)

スギ薬局 (2店舗)

- 栗野東店 (高富大竜寺前)
- ★岐阜城東店 (城東通り1丁目/加納八幡町)

さらに /
バス利用者向け
駐輪ラック

V・drug (2店舗)

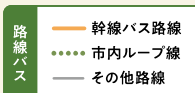
- ★長良西店 (福光球場前)
- ★北一色薬局 (北一色2丁目)

さらに /
軒下の
待合ベンチ

十六銀行

- ★忠節支店 (忠節)

軒下のベンチで
バスを待てます♪



★印：令和6年度開設 (6店舗)

スケジュール（運行費補助）

補助要綱第 18 条（第 11 条第 1 項の準用）に基づき、補助金の交付を受けようとする会計年度の 11 月 30 日までに交付申請書を提出する必要があります。

（例：R7 年度事業）

R6 年度												R7 年度												R8 年度		
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
		R7 計画認定申請			R7 計画認定														R7 交付申請		R7 事業評価		R7 交付決定・額の確定通知	R7 補助金支払い		

R7 年度事業 補助対象運行期間
(R6 年 10 月～ R7 年 9 月)

スムーズに交付申請を行えるよう、運行期間中から交付申請に必要なデータ等の整理をしておきましょう！



3. スケジュール等(交付申請～入金までの手続き)

実施フロー（交付申請抜粋版）

→青色は申請者が実施、黄色は国が実施する項目

計画認定通知（前年9月下旬）

事業期間（10月～9月）

交付申請（締切：11月30日）

事業評価提出（締切：1月31日）

交付決定・額の確定通知
（2月下旬～3月頃）

支払請求書提出

口座へ補助金振込（3月下旬～4月頃）

※全体版はフィーダー補助金のイロハ（計画認定申請編）をご参照ください。
※事業評価についての詳細は第4章をご覧ください。

・認定を受けた内容から変更が生じる場合は、**事前に計画変更手続き**を行ってください。

・10月下旬頃、申請様式や提出方法についての案内メールを自治体あて送付します。

・協議会を開催し、事業評価を行ってください。

（参考：令和6年度は2月27日）

・記載内容の確認を行うため、事前に仮提出いただきます。

・入金日は事前にお知らせできないため、口座をご確認ください。

おだタク・おだチケ実証事業（第5弾）の実施について

1 概 要

日中に路線バスの運行していない空白時間帯が生じている地域や、駅・バス停から離れている地域において、地域のニーズと実情に応じた移動支援策を選定するため、令和5年11月から「おだタク・おだチケ実証事業」を実施している。

令和7年11月から令和8年3月まで「第5弾」の実証事業に取り組む。

2 第5弾の実施内容

(1) 相乗りタクシー「おだタク」

地域との意見交換を行い、第4弾で一部の便の降車スポットに追加した「旧江の浦港バス停」を、さらに一部の便の乗車スポットに追加し、新ダイヤで運行する。

	第4弾 (R7.4～R7.10)	第5弾 (R7.11～R8.3)
運行地区	片浦（小田原駅～石名坂）	
乗降スポット	小田原駅、石橋公民館、米神公民館、根府川公民館、関所跡入口～石名坂までの各バス停付近	
対 象 者	予約不要(先着順)で誰でも利用可能	
運行日数	週2日（火・金曜日 ※祝・休日、年末年始は運休）	
運行時間／便数	午前10時15分頃～午後1時15分頃／1日当たり10便	
運 賃	1便600円(乗車人数に応じて案分)	

<第5弾の運行ダイヤ>

区間A					区間B							
小田原駅 西口		石橋 公民館		米神 公民館		根府川 公民館		各バス停 付近		石名坂		旧江之浦 港バス停
8:00発	→	8:12	→	8:14	→	8:20	→	→	→	8:33着		
9:12着	←	8:55	←	8:53	←	8:50	←	←	←	8:38発		
11:05	←	10:50	←	10:45	←	10:35	←	10:25	←	10:25	←	10:15
	→	11:20	→	11:25	→	11:35	→	11:35	→	11:45	第5弾で 追加	
12:30	←	12:15	←	12:10	←	12:00	←	11:45	←			
	→	12:45	→	12:50	→	13:00	→	13:00	→	13:15		
12:00	→	12:15	→	12:20	→	12:30	→	12:30	→	12:45	→	12:55
13:48発	→	13:58	→	14:00	→	14:07	→	→	→	14:23着	第4弾で 追加	
15:14着	←	14:57	←	14:55	←	14:52	←	←	←	14:40発		

直前
バス

直後
バス

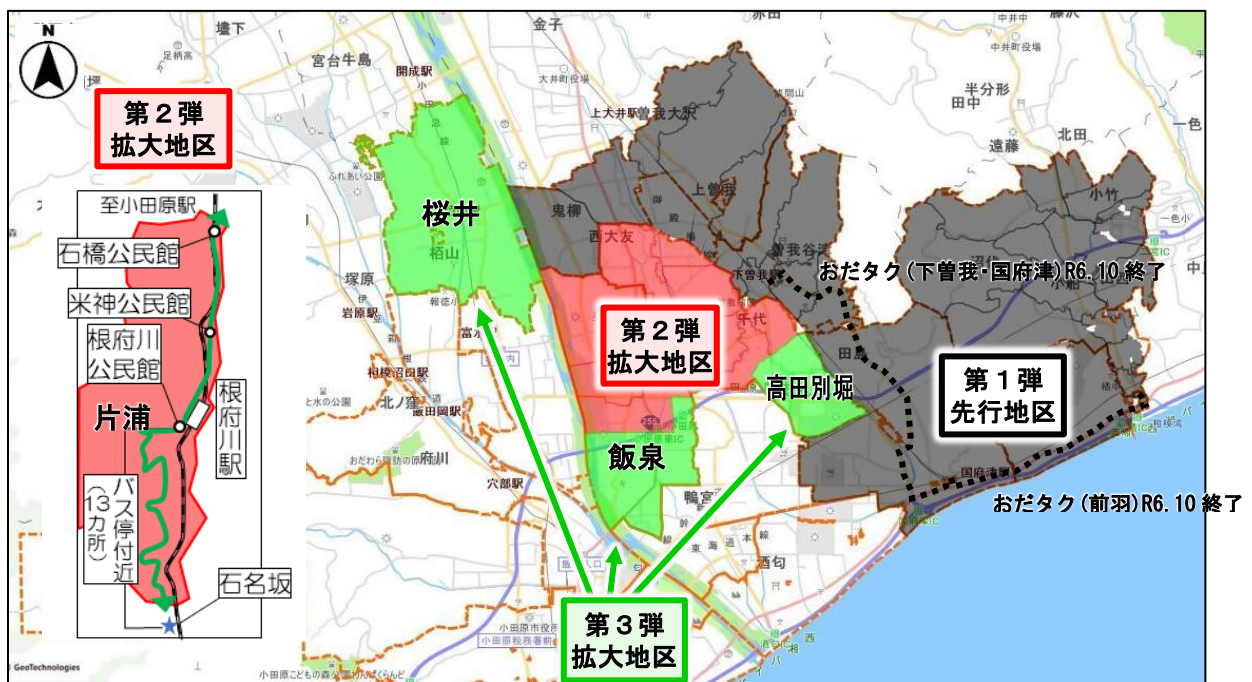
(2) タクシー・路線バス共通助成券「おだチケ」

第4弾の事業内容を継続して実施。

(対象地区、対象者、利用できるバス事業者・路線に変更なし)

	第4弾 (R7.4～R7.10)	第5弾 (R7.11～R8.3)
対象地区	曽我、下曽我、国府津、前羽、下中、片浦、豊川、上府中、桜井	
対 象 者	①70歳以上・運転免許証非保有者 ②妊婦	
申請・配付	①窓口、郵送及び電子申請で申請受付・配付(本人確認書類を添付) ※第4弾で配付された方には、市からおだチケを郵送 ②対象者(母子健康手帳を交付している妊婦)に郵送 ※郵送後は、母子健康手帳を交付する際におだチケを同時配付	
利用できるバス事業者・路線	富士急モビリティ 神奈川中央交通 箱根登山バス	乗り継ぎ等、対象地区以外の路線でも利用可能 ※一部路線は利用不可
助成金額	16,800 円 (7 カ月分)	12,000 円 (5 カ月分)

(3) 事業地区(地区自治会連合会の区域)



	相乗りタクシー「おだタク」	共通助成券「おだチケ」
第1弾(R5.11～R6.3)	前羽	黒
第2弾(R6.4～R6.10)	前羽+下曽我・国府津+片浦	黒+赤
第3弾(R6.11～R7.3)	片浦	黒+赤+緑
第4弾(R7.4～R7.10)	片浦	黒+赤+緑
第5弾(R7.11～R8.3)	片浦	黒+赤+緑

3 実施状況

(1) 相乗りタクシー「おだタク」

①実績

[1週当たり]

		前羽	下曽我・国府津	片浦
第1弾 ※前羽:予約制 片浦:地域主体の タクシー輸送	運行日数(日)	5日		2日
	運行便数(便)	90便		4便
	平均乗車便数(便)	5.3便		3.5便
	平均利用者数(人)	7.6人		9.2人
第2弾	運行日数(日)	2日		
	運行便数(便)	26便	20便	22便
	平均乗車便数(便)	4.3便	3.1便	11.3便
	平均利用者数(人)	5.3人	3.6人	17.9人
第3弾	運行日数(日)			2日
	運行便数(便)			20便
	平均乗車便数(便)			10.8便
	平均利用者数(人)			20.8人
第4弾 (9月末時点)	運行日数(日)			2日
	運行便数(便)			20便
	平均乗車便数(便)			11.3便
	平均利用者数(人)			19.5人

(2) タクシー・路線バス共通助成券「おだチケ」

①申請状況の推移

(※)第4弾は令和7年10月31日現在

		第1弾 (R5.11~R6.3)	第2弾 (R6.4~R6.10)	第3弾 (R6.11~R7.3)	第4弾 (R7.4~R7.10)
70歳以上 運転免許 証非保有	対象者(人)	2,513	4,605	6,971	7,138
	申請者(人)	1,151	2,138	3,257	3,618
	申請率(%)	45.8	46.4	46.7	50.7
妊婦	配付者(人)	—	—	246	318 ※8/31時点

※対象者数(運転免許証非保有者数)=70歳以上人口-運転免許証保有者数

第1弾の対象者は、75歳以上の運転免許証非保有者

妊婦は運転免許証非保有条件なし(申請不要)

②利用状況の推移

(※)第4弾は令和7年9月30日現在

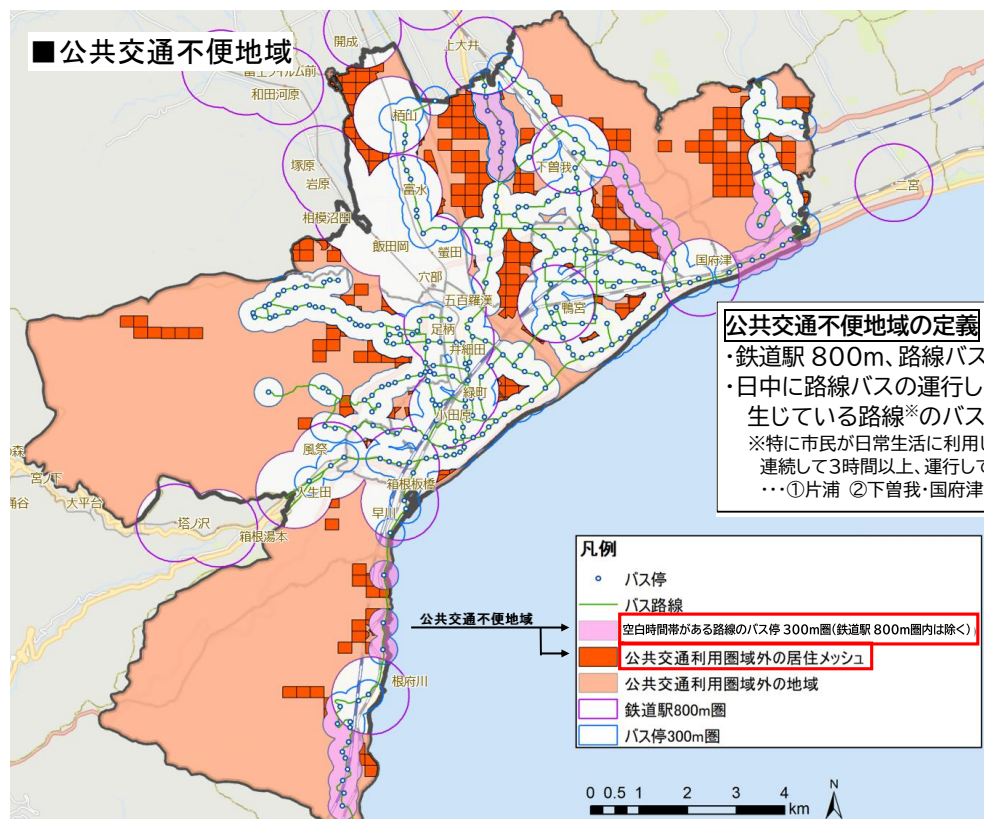
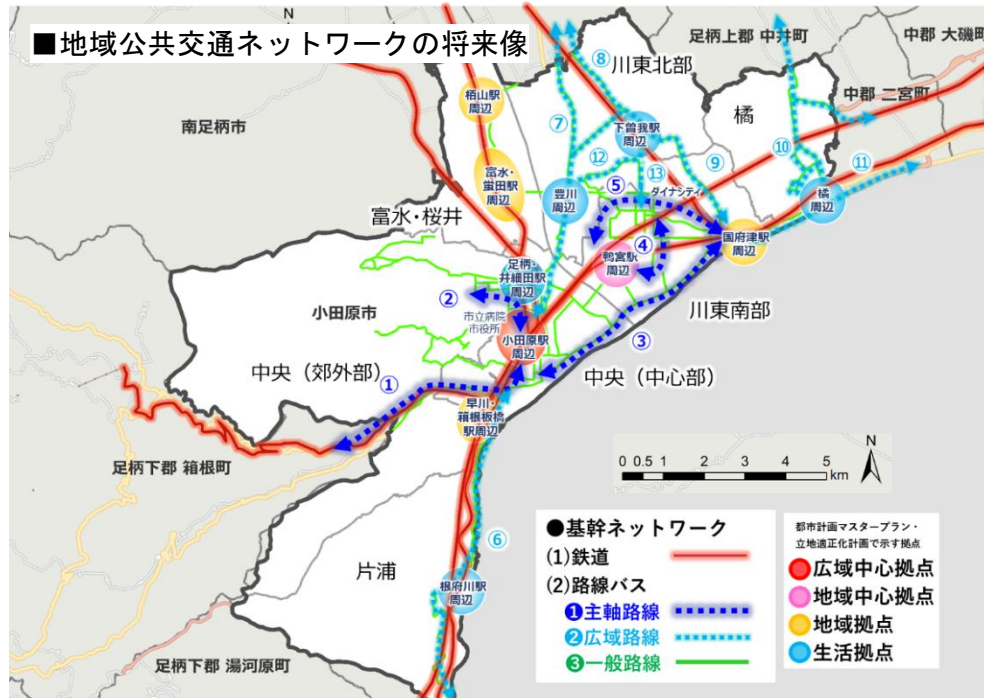
		第1弾	第2弾	第3弾	第4弾
配付金額(円)		13,812,000	35,918,400	42,036,000	66,124,800
利用金額(円)	タクシー	6,824,700	18,427,900	17,746,600	23,553,300
	路線バス	1,245,500	3,010,700	5,265,200	6,988,900
利用率(%)		58.4	59.7	54.7	46.2

※利用率=利用金額÷配付金額

移動支援の検討状況について

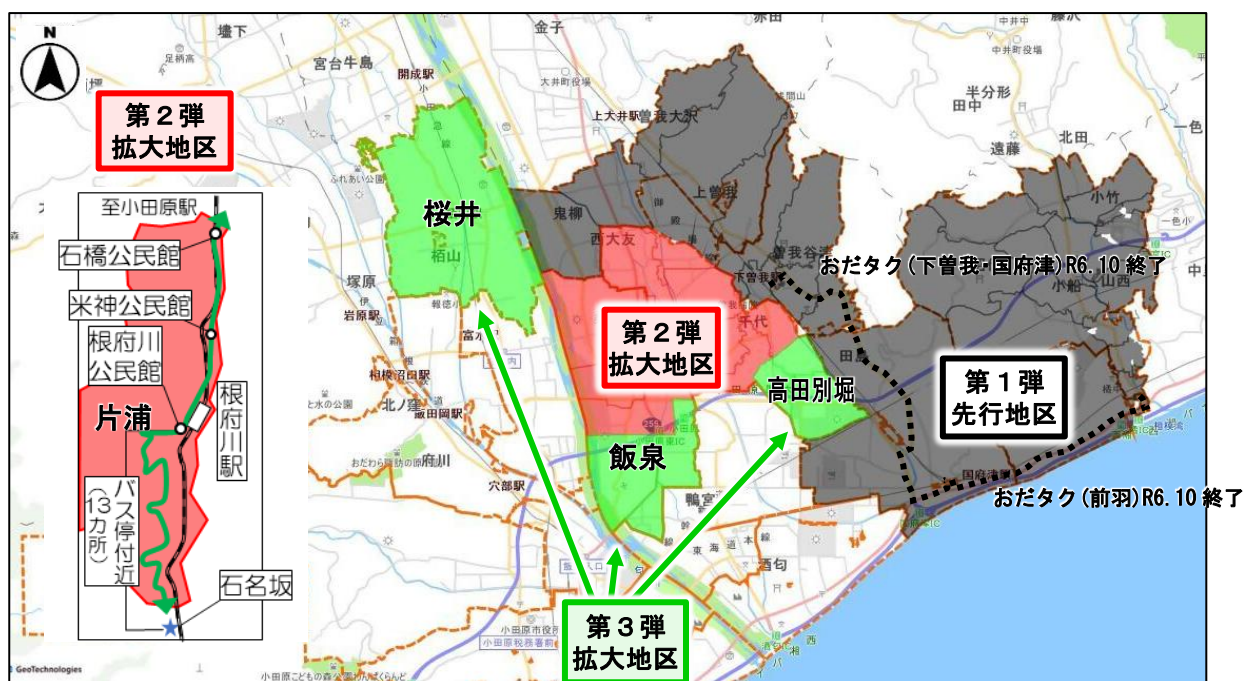
1 地域公共交通計画の基本方針

- 既存の公共交通の維持・確保を基本とし、公共交通不便地域においては、A Iや自動運転などの新たな技術の活用も含め、地域のニーズと実情に応じた移動支援策について、実証事業を繰り返しながら検討していくこととしている。



2 移動支援の取組状況（おだタク・おだチケ実証事業）

- ・喫緊の課題であった公共交通不便地域における移動支援を早期に実施するため、令和5年11月より、相乗りタクシー「おだタク」の運行及びタクシー・路線バス共通助成券「おだチケ」の配付を実施。効果を検証しながら実施内容を見直し、**令和7年11月から令和8年3月まで第5弾を実施する。**
- ・おだタクについては、片浦地区では一定の利用があり、移動支援策として効果が出ていることから、地域と協議の上、ダイヤの見直し等を行いながら運行を継続している。一方で前羽、国府津・下曽我地区では利用が少なく、「最寄りの乗降スポットまで行くのが大変」「自宅近くまで迎えに来て欲しい」「目的地まで直接移動したい」などの意見が寄せられ、2地区の運行は第2弾で終了した。
- ・おだチケについては、移動に係る費用が軽減されることを評価、事業の継続を望む意見が多い一方で、年齢制限や免許保有者が対象にならないことや、タクシーを呼ぼうとしても配車に時間がかかる場合があることの改善を望む声がある。



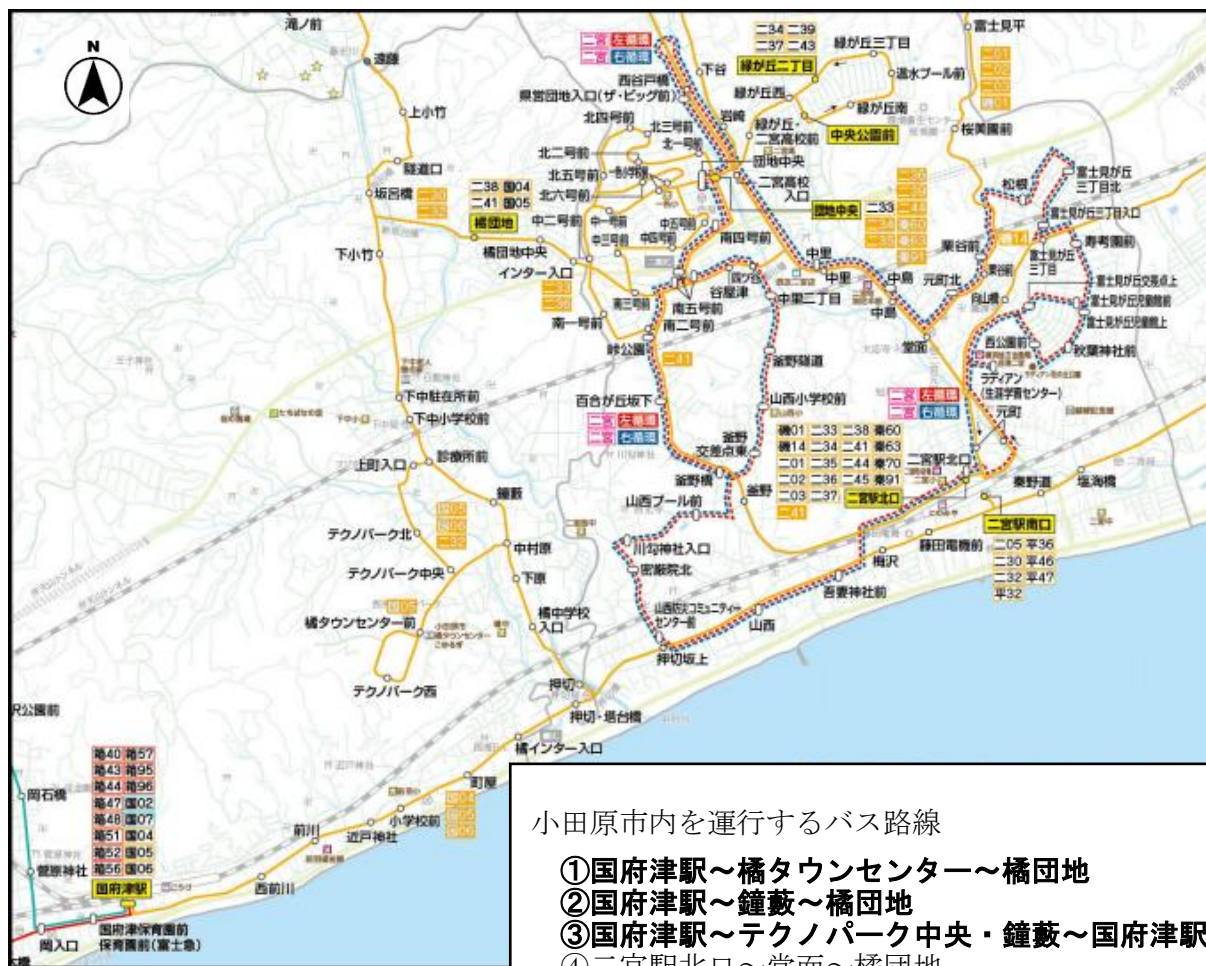
	相乗りタクシー「おだタク」	共通助成券「おだチケ」
第1弾(R5.11～R6.3)	前羽	黒
第2弾(R6.4～R6.10)	前羽+下曽我・国府津+片浦	黒+赤
第3弾(R6.11～R7.3)	片浦	黒+赤+緑
第4弾(R7.4～R7.10)	片浦	黒+赤+緑
第5弾(R7.11～R8.3)	片浦	黒+赤+緑

3 新たな移動支援策の検討

- ・公共交通不便地域における新たな移動支援策として、AI オンデマンド交通の実証運行に向けて、協議・調整を進めている。

4 神奈川中央交通からの申し入れ

- ・慢性的な運転士不足等を理由に、本市を運行する神奈川中央交通の全てのバス路線を対象とした、地域需要に即した持続可能なモビリティサービスの在り方の協議・検討について令和6年7月5日付で申し入れがあった。
- ・本市では、国府津駅～橋団地を運行するバス路線に運行収支赤字額の一部を補助し、路線の維持に努めている状況であるが、今回の申し入れを踏まえ、あらゆる可能性を想定した検討を進めることとなった。
- ・神奈川中央交通とは、持続可能な今後の在り方を路線の存廃も含めて協議するとともに、バス路線がまたがる二宮町とも検討状況を共有している。



5 今後について

- ・民間提案制度で採用した提案や神奈川中央交通の申し入れを踏まえ、まずは、路線バスの空白時間帯を補完する移動手段確保の優先度が高い地区を中心に、AIオンデマンド交通の実証運行の実施に向けて関係機関と調整を進めており、令和8年度中の開始を目指して取り組んでいく。

バスdeおでかけ プロジェクト



エコな交通手段「路線バス」に乗ってお買い物

(株)ダイドーフォワード（ダイナシティ）、イトーヨーカドー小田原店、箱根登山バス(株)、富士急モビリティ(株)、小田原市の連携・協働により、路線バスの利用促進と脱炭素化の推進を目的に実施しています。エコなバスに乗ってSDGsに貢献しよう！



Think
MIRAI

小田原から未来を考える

小田原市は持続可能な開発目標(SDGs)を推進しています。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

※この取組は、おだわらSDGsパートナーによる連携事業です。

税込3,000円以上のお買物※で、**バス無料乗車券**※をプレゼント！ 今度のお買物はバスを活用！！

ダイナシティ、イトーヨーカドー
小田原店で、お買上げ。
(当日レシートのみ合算可)

※一部対象外店舗あり

※当日のレシートに限り有効

※バス無料乗車券は、税込3,000円以上ごとに1枚配布

ウエストIF・インフォメーション
または、
イーストIF・イトーヨーカドー・
サービスカウンターにて、
レシートをご提示ください。

※1日につき最大2枚まで

※配布は令和7年11月30日(日)まで(1日先着100枚)

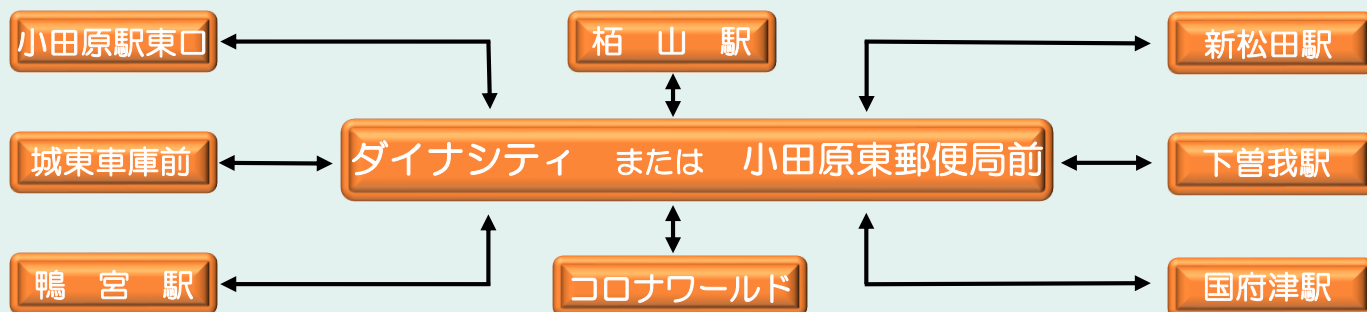
バス無料乗車券は、以下に示す
【利用可能バス路線図】の「ダイナシティ」
または、「小田原東郵便局前」バス停で、
乗車か、下車する場合のみ有効です。

※乗り換え時の継続利用不可

※無料乗車券1枚につき1回 乗車可能

実施期間：令和7年11月1日(土)～12月31日(水)

【利用可能バス路線図】



プロジェクトの
詳細はこちら⇒



資料 6

温暖化の原因は？

温暖化の主な原因とされているのは、二酸化炭素(CO₂)であり、ガソリン車の使用などにより、私たちの生活からも多く排出されています。



地球温暖化で変わった私たちの暮らし

今夏、本市では観測史上最高気温となる39・2℃が記録されました。このような猛暑をはじめとして、温暖化が私たちの生活に及ぼす影響は、年々着実に大きくなっています。



地球温暖化に今、できることは？

おだわらゼロカーボンフェアで見つけよう

ID P40225 問ゼロカーボン推進課 (33) 1426



地球温暖化対策につながる取り組みを体感できる「おだわらゼロカーボンフェア」を、温暖化と道路混雑の緩和を図る「バスdeおでかけフェア」と同時開催します。イベントへの参加を通じて、地球に優しくて便利な、これからの暮らしを体感しましょう。

できることを見つけよう

温暖化の改善には、皆さん一人一人のライフスタイルの転換が必要不可欠です。

そこで本市では、公民連携団体の「おだわらゼロカーボン推進会議」と共に、CO₂排出削減につながる取り組みを体感できる「おだわらゼロカーボンフェア」を開催します。さまざまな展示やワークショップを通じて、自分にもできる地球温暖化対策が見つかるはずです。ぜひご来場ください。

出展内容の紹介

うちエコ診断を実施します。

自宅のCO₂と光熱費を減らす方法を、環境省のガイドラインに基づき認定された「うちエコ診断士」が無料で診断・提案。もっと暮らしがお得に、地球に優しくなるポイントをお伝えします。

診断結果によってはこんなにお得に！



電気代節約
約7万円/年



CO₂排出量減
約1.5t/年

出典:家庭エコ診断制度ホームページ

おだわらゼロカーボンフェア

概要

- 日時** 11月2日(日)
午前10時～午後3時
- 場所** ダイナシティウエスト1階
キャニオンステージ
正面入口側エスカレーター付近
正面入口前(屋外)
- 内容** 脱炭素に係るさまざまな取り組みの展示、ワークショップ、景品がもらえるスタンプラリー、絵画・ポスターコンクールの表彰式など
- 共催** おだわらゼロカーボン推進会議、市



◀昨年度の様子

バスdeおでかけフェア

ID P14865 問地域交通課 (33) 1405

路線バス利用のきっかけづくりと脱炭素化の推進などを目的として、おだわらSDGsパートナーでもあるダイドーフォワード(ダイナシティ)、イトーヨーカ堂小田原店、箱根登山バス、富士急モビリティと本市が連携・協働して取り組んでいる「バスdeおでかけプロジェクト」の関連イベント「バスdeおでかけフェア」を開催します。

自動運転車両がやって来る

3月31日に、県、市および本田技術研究所の3者で市内における交通課題の解決に向けて「自動運転の実証実験に関する協定」を締結しました。自動運転技術は、公共交通機関の運転士不足などの交通課題に有効な解決策の一つとして期待されています。今後は、本協定に基づき、市内で自動運転技術の実証実験が開始される予定です。

当日は、実証実験で走行を予定している車両や、自動運転技術に関するパネル展示などを行います。

内容

ダイナシティウエスト
正面店頭

バス車両の展示、バス運転士
なりきり
体験、バ
スグッズ
の販売



▲体験の様子



▶自動運転車両(イメージ)

第7次小田原市総合計画 第1期実行計画における 地域公共交通に係る事項について

市総合計画第1期実行計画（計画期間：令和8～10年度）の行政案における地域公共交通に係る事項について、計画の全体版より抜粋しています。

1 市民アンケート調査結果 施策に対する満足度と重要度について

市の施策25項目に対する満足度・重要度に関して、重要度が高いが満足度は低いと考える施策に「道路や公共交通の充実」がある。（全体版：P.8）

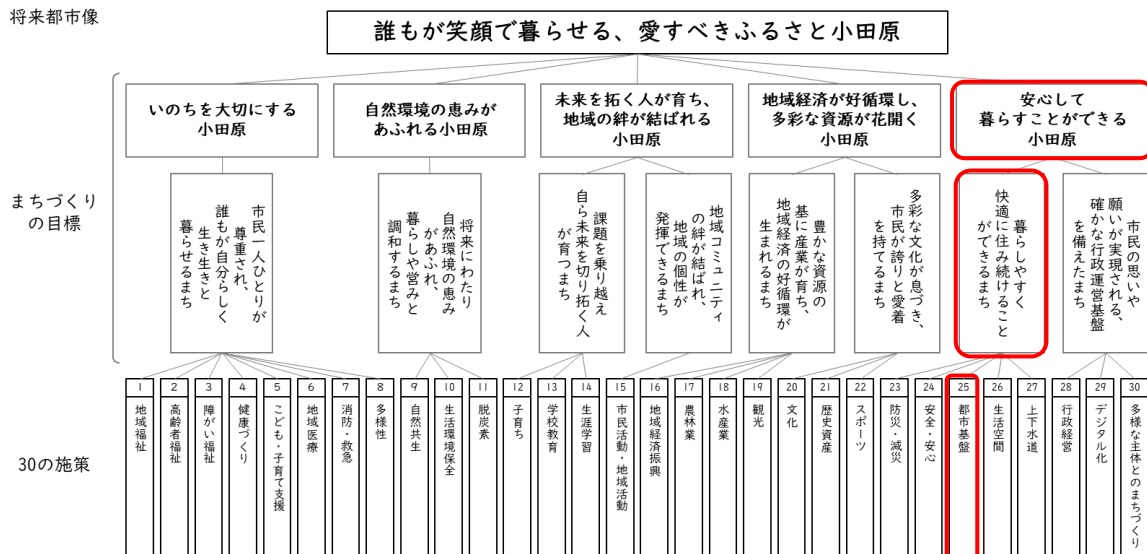
満足度 高い	●互いを尊重し地域で助け合う社会の推進 ●健康づくりへの支援 ●地域活動・市民活動の推進 ●水産業の振興 ●観光の推進 ●歴史資産の保存・活用 ●文化やスポーツなど生涯学習の振興	●消防・救急体制の充実 ●防災対策 ●廃棄物の減量化と資源化・環境美化 ●上下水道の整備
満足度 低い	●障がい者福祉の充実 ●企業誘致・新しい働き方の推進 ●商工業の振興 ●農林業の振興 ●脱炭素社会の実現に向けた取組 ●環境保全対策の充実	●高齢者福祉の充実 ●地域医療体制の充実 ●交通安全・防犯対策の充実 ●子ども・子育て支援策の充実 ●学校教育の充実 ●市街地の整備 ●住環境の整備 ●道路や公共交通の充実
	重要度 低い	重要度 高い

【施策25項目に対する満足度・重要度】

2 実行計画の枠組み・重要業績目標達成指標（KGI）について

市政運営全般の取組を30の施策に整理する中で、地域公共交通は「25 都市基盤」に位置付けるとともに、「公共交通機関での市内の移動が便利だと思う市民の割合」を重要業績目標達成指標に設定している。（全体版：P.14, 17）

将来都市像



【「将来都市像」 - 「まちづくりの目標」 - 「30の施策」の関係性】

3 施策25 都市基盤・詳細施策2504 公共交通ネットワークの構築について

(全体版：P. 66-67)

◆現状と課題

- ・本市では都市機能や居住が集積している鉄道駅等の周辺を拠点とし、各拠点が公共交通で結ばれた多極ネットワーク型コンパクトシティの形成を目指しています。
- ・鉄道事業者5社6路線18駅と、バス事業者4社が運行する路線バスにより面的な公共交通ネットワークが構築されていますが、利用者減少や運転士不足などにより、路線バスは大幅な減便、廃止が複数回行われています。
- ・持続可能な公共交通ネットワークを構築するため、既存の公共交通の維持・確保を基本として、新たな移動手段の導入などを検討する必要があります。

◆成果目標

3 路線バスの路線数（主軸路線及び広域路線）

基準値（令和7年度）	目標の方向性	目標値（令和10年度）
13 本	維持	13 本

4 バリアフリー化された鉄道駅舎数

基準値（令和7年度）	目標の方向性	目標値（令和10年度）
11 駅	増	12 駅

詳細施策 2504 公共交通ネットワークの構築

◆3年間で取り組むこと

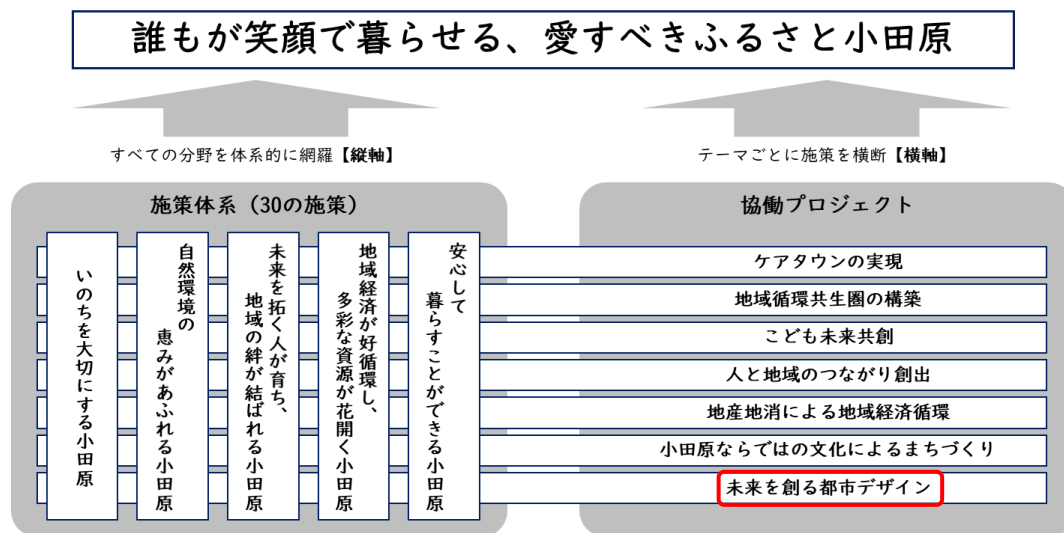
- ・既存の公共交通を維持するための運行費用の一部補助や、公共交通不便地域での地域のニーズや実情に応じた移動支援を選定するため、AIや自動運転など新たな技術の活用も含め実証事業に取り組みます。
- ・鉄道輸送力の増強や利便性・安全性の向上を図るための要望活動に取り組むとともに、駅舎のバリアフリー化を事業者や国、県と連携し推進します。
- ・自動車（自動二輪車を含む）駐車場について、需給バランスを考慮した適正配置や既存駐車場の有効活用に努めます。

◆主な取組

- ・路線バスの維持・確保・利用促進
- ・おだタク・おだチケ事業
- ・AIオンデマンド交通・自動運転技術の実証
- ・鉄道駅舎バリアフリー施設整備
- ・駐車場の実態調査や駐車場情報の更新

4 協働プロジェクト 7未来を創る都市デザインについて

まちづくりの目標の達成に向けて分野ごとに整理した30の施策体系では捉えきれない分野横断的な課題に対して、多様な主体がそれぞれの立場や強みを生かしながら共に取り組むアクションを「協働プロジェクト」として位置付けるものです。各施策体系における事業と協働プロジェクトを複層的に推進し、将来都市像「誰もが笑顔で暮らせる、愛すべきふるさと小田原」の実現を目指します。（P. 78, 81）



【30の施策体系と協働プロジェクトの関係性】

7 未来を創る都市デザイン

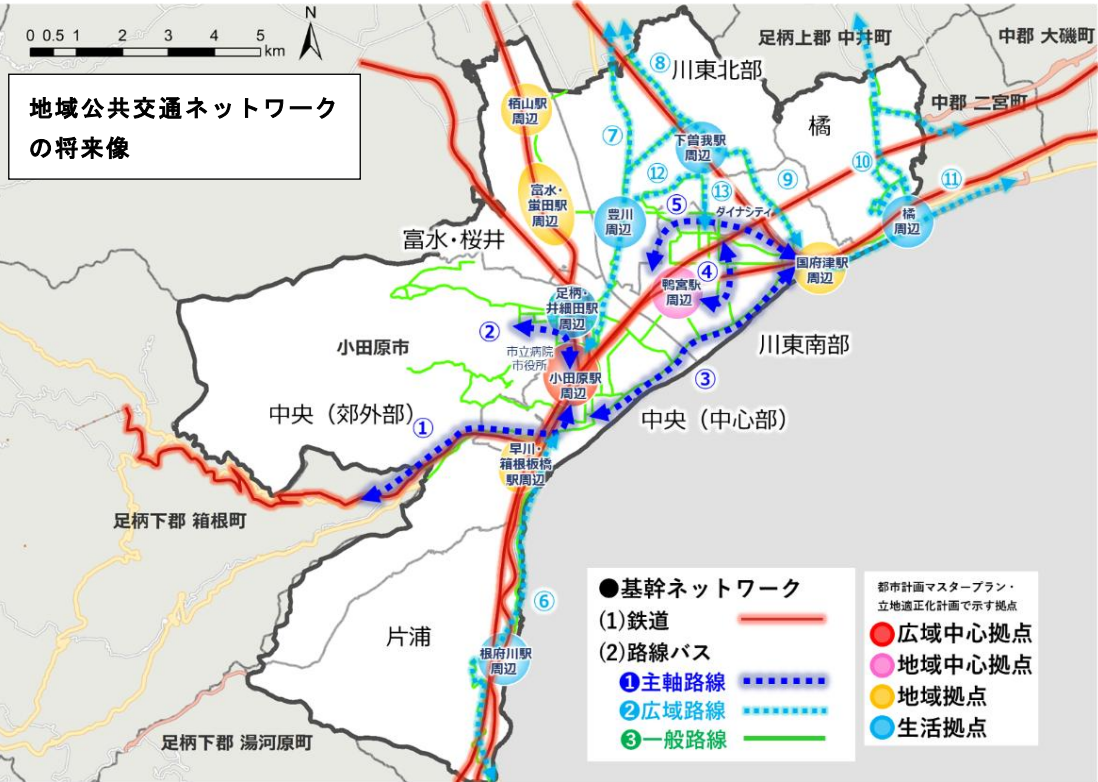
小田原駅周辺で商業ビルの老朽化や建替によるマンション建設が進むなど、まちの更新期を迎えていることや、路線バスが減便・廃止されている現状の中、市民生活において重要となる移動手段の確保など、市民が居住する地域で直面している課題の解決に向けて、様々な手法を検討しながらまちをデザインしていくとともに、どんなまちを未来に残していきたいか、そのためにそれぞれの役割分担の中で何をしていくべきであるのかなど検討を進めていきます。

<主なアクション>

- ・小田原駅周辺地区のまちの再生に係る検討
- ・地域交通のリ・デザイン

詳細施策2504 公共交通ネットワークの構築における成果目標について

3. 路線バスの路線数（主軸路線及び広域路線）の維持 【13路線を維持】



主軸路線		事業者
①	小田原駅～箱根方面	箱根登山バス、伊豆箱根バス
②	小田原駅～市立病院	伊豆箱根バス
③	小田原駅～国府津駅	箱根登山バス
④	鴨宮駅～ダイナシティ	箱根登山バス
⑤	鴨宮駅～国府津駅	箱根登山バス
広域路線		事業者
⑥	小田原駅～根府川駅～石名坂	箱根登山バス
⑦	小田原駅～西大友～新松田駅	富士急モビリティ
⑧	小田原駅～下曽我駅～新松田駅	富士急モビリティ
⑨	国府津駅～下曽我駅（～新松田駅）	富士急モビリティ
⑩	国府津駅～橘団地	神奈川中央交通
⑪	二宮駅南口～中井町役場入口	神奈川中央交通
⑫	国府津駅～新松田駅	富士急モビリティ
⑬	ダイナシティ～新松田駅	富士急モビリティ

4. バリアフリー化された鉄道駅舎数の増 【 11駅 ➡ 12駅 】

	路線名	駅名	バリアフリー化	多機能トイレ	点状ブロック
1	複数路線	小田原	エレベーター	○	○
2		国府津	エレベーター	○	○
3	東海道線	鴨宮	エレベーター	○	○
		早川	×	×	○
		根府川	×	○	○
	御殿場線	下曽我	×	×	○
4	小田急線	足柄	エレベーター、スロープ	○	○
5		蛭田	スロープ	○	○
6		富水	スロープ	○	○
7		栢山	スロープ	○	○
	箱根登山線	箱根板橋	× ※1	○	○
8		風祭	スロープ	○	○
9		入生田	スロープ	○	○
	大雄山線	緑町	×	×	× ※2
10		井細田	スロープ	×	○
		五百羅漢	×	×	○ ※3
		穴部	×	×	○
11		飯田岡	構内及び出入口に 高低差なし	×	○

※1 スロープのみ、出入口が駅員による開閉式

※2 ホーム内一部未整備

※3 点字ブロックのみ整備